

専任教員教育研究業績

平成 29 年 5 月 16日

氏名	ふりがな	所属学科	職 位	性別
渡辺厚美	わたなべあつみ	保育学科 通信教育課程	准教授	女

担 当 科 目 名

音楽表現ⅠA、音楽表現ⅠB、音楽表現Ⅱ、音楽表現Ⅲ

学 歴

和暦(西暦)年 月	事 項	学位
平成14(2002)年3月	国立音楽大学音楽学部音楽教育学科(幼児教育専攻)卒業	学士(音楽)
平成14(2002)年4月	東京学芸大学大学院教育学研究科(音楽教育専攻)入学	
平成16(2004)年3月	東京学芸大学大学院教育学研究科(音楽教育専攻)修了	修士(教育学)
平成17(2005)年4月	東京学芸大学大学院連合学校教育研究科学校教育専攻芸術系教育講座入学	
平成20(2008)年3月	東京学芸大学大学院連合学校教育研究科学校教育専攻芸術系教育講座単位取得満期退学	博士(教育学)

教 育 歴 ・ 職 歴

名 称	期 間	教育内容又は業務内容
目白大学人間学部子ども学科(兼任講師)	平成19年9月～平成20年3月	音楽Ⅰ、音楽Ⅱ担当
目白大学人間学部子ども学科(専任講師)	平成20年4月～平成22年3月	音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、指導論(音楽表現)、音楽表現、わらべ歌と児童の発達、演劇・人形劇の世界、子ども学科リカレント保育鋼材を担当
目白大学人間学部児童教育学科(専任講師)	平成22年4月～平成23年3月	初等教科教育法(音楽)、音楽実技、音楽、わらべ歌と児童の発達、演劇・人形劇の世界、音楽Ⅰ、音楽Ⅱを担当
八王子市生涯学習センター「みんなて歌おう会」(講師)	平成22年10月～現在に至る	歌唱伴奏・指導
東京未来大学こども心理学部こども心理学科(通学及び通信)(非常勤講師)	平成24年4月～現在に至る	こども音楽(通信)、音楽実技ⅠA(通学及び通信)、音楽実技ⅡB(通学)、音楽表現指導法(通学)を担当

所 属 学 会 等

名 称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
日本音楽教育学会	平成14年4月～至現在	
日本教材学会	平成15年4月～至現在	
音楽学習学会	平成17年4月～至現在	

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単 著 共 著	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概 要

	の別			
(著書) 『音楽表現』	共著	平成22年4月	一藝社	「即興表現する活動の展開例」幼稚園や保育所における、幼児のための即興的音楽表現活動とその展開例及び意義について論じた。
(学術論文) 『「表現」の前段階としての「表出」と音楽学習—低学年児童の音楽行動にもとづいて—』 単著	単著	平成18年1月	「音楽学習研究」 第1号 pp. 31-40 (音楽学習研究会)	低学年児童の音楽行動において、「表出」から「表現」が生み出されていく過程は、まさに音楽の学習過程そのものである。「表出」は、それぞれの児童がその児童なりに、外界に働きかけ、音そのものや音が響く空間を感じ、外界に対する認識が、働きかけ方によって変化していく過程である。「表出」から「表現」への過程における体験や、体験から得た知識・技術・ものの見方などは、子どもの表現活動において、生きて働く力となる。個性尊重、自ら学ぶ力を育むということの問題とすると、表出は、今後検討されるべき課題だといえる。
『音楽行動における発展・展開に関する研究—1年生児童のフィールドワークに基づいて—』	単著	平成19年1月	「音楽学習研究」 第2号 pp. 33-42 (音楽学習研究会)	1年生児童の学校生活における自発的な音楽行動には、「時を経ることにより生じる音楽行動の発展・展開」と「音楽行動が繰り返されるときに生じる発展・展開」という、二つの発展・展開をみることができる。「時を経ることにより生じる音楽行動の発展・展開」は、学級内の人間関係と相互に影響しあっている。一学期から二学期、三学期へと時が経過し、人間関係が充実したものとなるにつれ、一つの音楽行動に加わる人数も増え、その内容も充実したものになっていく。一方、「音楽行動が繰り返されるときに生じる発展・展開」では、歌詞、身体の動き、テンポ、音程、リズム、強弱など、その内容において発展・展開が認められる。これら二つの発展・展開は相互に影響しあっている。また、人間関係、担任教師の働きかけ、音楽的環境、音楽科教材、行事などが音楽行動の発展・展開に与える影響は大きい。
『環境移行と音楽科教材の選択—1年生児童のフィールドワークに基づいて—』	単著	平成19年3月	「教材学研究」 第18巻 pp. 51-60 (日本教材学会)	小学校入学は環境移行の一つであり、多くの1年生児童は、期待と共に不安を抱いている。特に、対人環境への適応にその傾向が見られる。児童の対人環境への適応と音楽行動は相互に影響しあっている。 音楽行動を分析することから、対人環境への適応を考慮した音楽科教材について論じた。
『音楽行動におけるグループと音楽の共有—1年生児童のフィールドワークに基づいて—』	単著	平成20年3月	「音楽学習研究」 第3号 pp. 21-30 (音楽学習研究会)	1年生児童の自発的な音楽行動において、人間関係が良好になり、音楽が共有されていく過程は、音楽科の授業におけるグループでの学習過程と重なる場面である。児童の音楽行動を分析することからは、授業内のグループ学習において、音楽が共有されていく過程をさらに充実したものとするためには、多様な情報や、その情報を生かすための多様な方法を学ぶことにより、児童の日常生活における音楽行動は、さらに豊かなものになるであろうといえる。
『音楽行動の根底にあるもの—1年生児童のフィールドワークに基づいて—』		平成21年3月	『音楽学習研究』 第4号 pp. 19-27 (音楽学習研究会)	日本の子どもの音楽づくりは、日本語を話す行為に深く根づいた、一定の表現形式に従っている。このような日本の子ども独自の音楽性があることを認識し、日本の子ども独自の音楽性を生かした音楽教育の内容・方法等を検討し、子どもたちの音楽性をさらに育む音楽教育の重要性について論じた。
(その他) ピアノ組曲『Dance』	単	平成19年4月	京都市立芸術大学	作品初演・録音 (CD 作成) ピアノ演奏 (河井珠江)

ピアノ連弾組曲『Dance』	単	平成19年4月	京都市立芸術大学	作品初演・録音 (CD作成) ピアノ演奏 (河井珠江・植松さやか)
『スペイン組曲』 『くるみ割り人形』	共	平成23年12月	八王子市生涯学習センター クリエイトホール	ピアノ演奏連弾 (共演 阿部博子・田中佐知子) スペイン舞曲 モシユコフスキー作曲 くるみ割り人形 チャイコフスキー作曲
『さくらさくら』 『プリマベーラ』	単	平成26年3月	日野市民会館	編曲初演 (ピアノ8手連弾) ピアノ演奏 (青柳有子・酒井 真理乃・田仲佐知子・渡辺厚美)
『マメールロア』	共	平成26年3月	八王子生涯学習センター クリエイトホール	ピアノ演奏連弾 M.ラヴェル作曲 (共演 田仲佐知子)
『バラード第1番』 『幻想即興曲』 『ノクターン第2番』	単	平成28年2月	八王子生涯学習センター クリエイトホール	ピアノ独奏 F.ショパン作曲
『スケルツォ』 『ワルツ』	共	平成28年4月	八王子いちょうホール	ピアノ連弾 (共演 酒井真理乃・田仲佐知子)
『バラード第3番』	単	平成28年6月	赤羽文化センター	ピアノ独奏 F.ショパン作曲
『花のワルツ』	共	平成29年3月	八王子生涯学習センター クリエイトホール	ピアノ連弾 (共演 酒井真理乃・田仲佐知子)
『Spain』 『Brazil』 他	共	平成29年4月	八王子生涯学習センター クリエイトホール	ピアノ連弾 (共演 酒井真理乃・田仲佐知子)
『My Favorite Things』	単	平成29年4月	八王子生涯学習センター クリエイトホール	編曲初演 (ピアノ8手連弾) ピアノ演奏 (青柳有子・酒井 真理乃・田仲佐知子・渡辺厚美)
「講演」 『「赤い鳥」と「童謡」』	単	平成24年8月	八王子生涯学習センター クリエイトホール	『雑誌『赤い鳥』の創刊から終刊までを、『赤い鳥』に関わった作家、詩人、作曲家、画家、また、雑誌『金の船』『コドモノクニ』等に触れながら童謡を中心に解説した。